

大泉高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	把握された課題
やすらぎミラージュ支所 平成29年6月27日(火) 14:00~16:00 やすらぎミラージュ会議室	町会長、民生委員、老人クラブ、保健相談所、医療機関相談員、精神保健福祉相談員、シルバー人材センター、訪問介護、NPO法人シルバーお助け隊、高齢者相談センター(本所・支所) 計 15名	多量の飲酒をする習慣を止められないが、生活の改善が見られ始めた方へのより良い支援	・多量の飲酒をする習慣を止められない一方で、介護保険サービスを利用することで生活の改善が見られ始めた高齢者へのアプローチの方法を確認する。	・アルコールの問題に対する各関係機関の取り組みや支援について、情報共有を行った。 ・社会参加のためには多量の飲酒を止めなければならないが、止めるには本人の「治したい」という意志を不可欠であり、その覚悟が本人にない限り、いかなるアプローチも徒労に終わる可能性が高い。そのためにも、支援者による様々な分野からのエンパワメント(その人自身の潜在的な力を引き出す働きかけ)を進める必要性について再認識できた。	・経済的な理由で治療をしようとなし、またはできない利用者(患者)もいるため、医療費の助成等のあり方に関する検討が必要である。 ・介護保険サービスの利用者というだけの立場にとどまらず、高齢者本人の活動の場を増やすための支援が必要である。その結果として、飲酒との距離を遠ざけることにつながる。
大泉北支所 平成29年8月28日(月) 14:00~15:30 辻内科歯科循環器科クリニック会議室	医師、民生委員、町会役員、近隣住民、知人、主任介護支援専門員、訪問介護、配食サービス事業者、NPO法人身元保証サービス、高齢者相談センター(本所・支所) 計 17名	ひとり暮らし認知症高齢者への支援について	・前年度も取り上げた事例について、その後の経過と今後について情報共有を図る。 ・本人への介入後の支援内容および関係者の役割分担について検討する。	・医師などの専門職だけでなく、近隣住民からも多くの発言を得られ、高齢者本人への支援に関するそれぞれの思いについて共有できた。 ・本事例は、近隣住民から多くの支援を得られている事例であり、それぞれの強みを活かしつつ、役割を明確にすることで、本人が住み慣れた家で生活を続けていくことを目指すという共通認識を持つことができた。	・金銭管理や入院、入所が必要になった場合の身上監護については、ひとり暮らしで認知症の高齢者の方の共通課題として認識する必要がある。 ・ひとり暮らし高齢者が利用できるサービスや社会資源の把握を行うとともに、必要時に繋げられるよう高齢者への適切な支援が必要である。
大泉学園支所 平成29年6月22日(木) 15:30~17:00 大泉総合福祉事務所第一会議室	民生委員、主任介護支援専門員、介護支援専門員、訪問リハビリ理学療法士、通所介護、福祉用具、保健相談所、高齢者相談センター(本所・支所) 計 19名	『片付けましよう』と踏み込めない、閉ざされた『ゴミ屋敷』~家族が精神障害者と推測される家の環境改善のために~	・精神障害と推測される家族とゴミ屋敷状態の住居に同居している高齢者の事例を通して、支援者に必要な視点、介入方法について検討する。 ・事例を通して地域全体に共通する課題について検討する。	・今回の事例については、地域ケア個別会議を通して、現状の住環境でもすぐに生命の危険が無いことから、現時点で積極的な介入はしないとの方向について、多職種での検討結果が出された。 ・外観ではゴミ屋敷とは分からない事例や、高齢者本人がキーパーソンで自身の介護が必要になる等のきっかけが無ければ、家庭内の問題が明るみに出ない事例が他にも多くあるだろうとの意見があった。	・ゴミ屋敷の問題については、地域の防災の観点からも検討する必要がある。 ・高齢者支援に関わる専門職と精神障害者支援に関わる保健師で、顔の見える関係が築けたが、今後も継続して他領域の関係者が一堂に会する場を設けていくことが必要である。 ・同様の事例に関して、ケアマネジャーが1人で悩んでいるケースも多いと思われるため、気軽に多職種で検討できる機会を設けるなど、ケアマネジャーへの支援が必要である。
南大泉支所 平成29年6月1日(木) 13:30~16:00 大泉総合福祉事務所会議室	大学教授、精神科医療機関、民生委員、町会役員、警察署、配食サービス事業者、ボランティア地域福祉推進コーナー、主任介護支援専門員、福祉事務所、高齢者支援課、高齢者相談センター(本所・支所) 計 19名	独居高齢者と地域との関わりや見守りについて考える	・事例を通して、参加者間での意見交換、具体策の検討を行う。 ・各関係機関の取り組みや役割、連携について検討する。 ・不衛生な家屋に住む方への介入、支援方法について検討する。	・今回のテーマは今後も増加していくことが予想され、高齢者と地域との関係性など様々な課題について検討を行った。 ・参加者におけるそれぞれの立場での悩み事や関心事についての意見交換ができ、情報共有も行うことができた。 ・大学教授や精神科の医療従事者の方など専門性の高い関係者からの意見を伺うことができ、今回の事例に関わらず、高齢者とのアプローチ方法について学ぶことができた。	・ひとり暮らし高齢者の支援にあたっては、地域包括支援センターと地域の関係機関が連携しながら高齢者を見守るという視点が必要である。 ・高齢者を取り巻く課題への対応策については、常に新しい意見を取り入れ、様々な形でのアプローチを継続していくとともに、正しい情報や予防策を地域に広く発信していく必要がある。
大泉支所 平成29年6月26日(月) 14:00~16:00 大泉総合福祉事務所会議室	民生委員、生活支援員、主任介護支援専門員、通所介護、訪問介護、訪問看護、敬老館、地区区民館、福祉事務所、高齢者相談センター(本所・支所) 計 17名	高齢の精神疾患の方の支援~ゆるやかに見守りあえる地域づくり~	・事例を通して、各専門機関の取り組みや役割について情報共有を図る。 ・問題を抱えている高齢者について、支援につなげる体制を地域の中で確立する方法について検討する。	・認知症や精神疾患への理解や対応について、大きな企業等では、企業として取り組み、行政との連携が行われているが、個人商店や小さな商店会に対しては周知や啓発が不足していることが確認された。 ・認知症等について、地域の方々に広く知っていただくよう努めていかなければならないことを再認識した。あわせて、地域の商店会など、地域に密着した機関とのさらなる連携が必要であることを確認した。	・地域の課題を地域住民等が主体となり解決できる仕組みづくりについて、地域包括支援センターが牽引していく必要がある。 ・認知症などに関する相談窓口として、地域包括支援センターやその他機関について、地域住民や関係機関へのさらなる周知が必要である。